

卒業生が生涯使える メールアドレスをご提供

大阪大学を卒業・修了された方に、生涯使えるメールアドレスを提供しています。マイクロソフト社の正式ライセンスに基づいて発行される、安心安全のアカウントです。ビジネスに、プライベートに、末永くご活用ください。

このアドレスにはメールマガジン【OUMail News】をはじめ、大阪大学の最新のニュースやイベント案内などの情報をお送りしています。

ご希望の方は、下記URLから申し込みフォームをダウンロードしてご利用ください。

→ <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/alumni/oumail>

OUMail 検索

生涯メールアドレスとメールマガジンのご案内

大阪大学の卒業生の皆さまを広くサポートする「卒業生室」では、メール関係のサービスを開始しました。どうぞご活用ください！

Using life service, Osaka University
has been sending graduates OUMail News
and information about events and more.

大阪大学 Web メール 「OUMail」生涯メールアドレス

大阪大学・大阪外国語大学の卒業生の皆さまに、大阪大学 Web メール「OUMail」のメールアドレスを提供します。このメールアドレスへはメールマガジン「OUMail News」をお届けします（申し込み不要）。

・「OUMail」はウェブ環境でどこからでも無料で利用できます。便利な自動転送機能つき。申込みにご記入のうえ、本人確認書類（運転免許証、健康保険証、パスポート、住民票いずれかのコピー）とともに郵送、またはEメールでお送りください。申込書は大阪大学ホームページからもダウンロードできます。

大阪大学卒業生向けメールマガジン「OUMail News」

大阪大学の旬な話題や各種イベント案内、お得情報などを毎月2回お届けします。

・申し込み方法
卒業生室（alumni-app@ml.office.osaka-u.ac.jp）にて、Eメールで、件名を「OUMail News 申込」とし、本文に下記の事項を明記してお申し込みください。
①お名前、②ご連絡先（住所・電話）、③メールアドレス、④大学との関係
・バックナンバー（過去の配信内容）は大阪大学ホームページに掲載しています。

OUMail 検索

【申し込み・問い合わせ先】

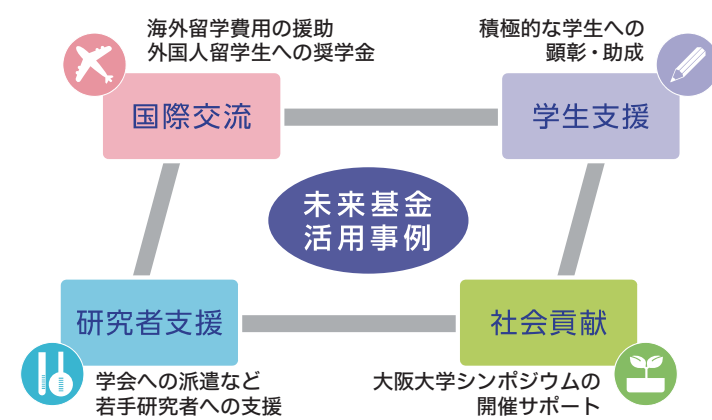
大阪大学 卒業生室
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1
Tel: 06-6879-7197 / Fax: 06-6879-4337
Email: alumni-info@ml.office.osaka-u.ac.jp
URL: www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/alumni

www.osaka-u.ac.jp www.facebook.com/OsakaUniversity @osaka_univ

大阪大学未来基金に ご支援を

大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けています。本誌4ページで紹介した事業などのほか、「中之島キャンパス再開発事業」「部局の教育研究」「クラブの活動」など、特定の事業への支援も可能です。後輩たちの元気を支えるため、ご協力をお待ちしております。未来基金HPはこちら

→ <https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/>



大阪大学カード ぜひご利用ください

「大阪大学カード」は、大阪大学と大阪外国語大学の卒業生、現・元教職員だけが持つことのできる、「大阪大学ファミリー」の証です。利用料金の一部が大学に還元されて教育・研究や学生支援などに活用される、使うほど母校の支えとなるカードです。オリジナルデザインが魅力の1枚。ぜひ入会をご検討ください。公式WEBページはこちら

→ <http://www.osaka-u.ac.jp/sp/oucard/>

大阪大学カード 検索

中之島センターの特別減免制度 卒業生も利用できます

大阪大学中之島センターでは、センターの活性化を目指して、大阪大学関係者を対象に、使用料・分担金を全額免除する「特別減免制度」を実施しています。たとえば、卒業生が互いの親睦を深めることを目的に開催する会合（同窓会等）は、制度適用の対象となります。

適用の条件、手続き方法など、詳しくは中之島センターホームページをご覧ください。

→ <http://www.onc.osaka-u.ac.jp>



OU Alumni

Annual Review

大阪大学卒業生のための情報誌



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

March 2016



Contents

- 2 大阪大学トピックス
- 4 元気です！阪大生
- 6 OU Global Alumni Fellow
- 7 卒業生の「集い」から
- 8 OB・OG群像——卒業生だより
- 12 Information

国際色豊かに 秋の卒業式、入学式



平成27年度の秋の卒業式・大学院学位記授与式と入学式は、それぞれ9月25日と10月1日、大阪大学コンベンションセンターで挙行されました。秋入学は外国人留学生が多いことから、式はすべて英語で行われました。

箕面キャンパス、 新駅隣に移転

大阪大学と箕面市は15年6月17日、大阪大学箕面キャンパスの移転について覚書を交わしました。移転予定地は、延伸計画が進む北大阪急行の新駅「(仮称)箕面船場駅」東隣という、都市型キャンパス。創立90周年となる2021年のキャンパス開きを目指します。



「クリエイティブアイランド中之島」を 考えるシンポジウム開催

大阪大学発祥の地・中之島4丁目地区は、大阪の学術・文化・芸術の発信拠点としてますます注目を集めています。12月20日には、中之島ゆかりの企業、組織の代表者が一堂に会してエリアの将来を語り合うシンポジウムが開かれ、中之島センターを中心とする大阪大学中之島キャンパスをさらに活性化する「中之島アゴラ」構想も披露されました。



本学のエネルギーマネジメントに 高い評価——受賞相次ぐ

「平成27年度省エネ大賞」で、大阪大学は「資源エネルギー庁長官賞」を受賞し、16年1月27日に東京で表彰式が行われました。大規模総合大学キャンパスの特性に



応じたさまざまな取り組みや、エネルギー消費量を大幅に削減した成果が、高く評価されました。

2月16日には、大阪府が主催する「平成27年度おおさかストップ温暖化賞」で、最高位の「知事賞」を授与されました。施設のカテゴリー別の省エネ基本戦略にもとづき、平成26年度の温室効果ガス排出量(延床面積あたり)の対前年度比5.9%削減を達成し、高い評価となりました。

吹田キャンパス近くに 続々大型施設

阪大吹田キャンパスの「目と鼻の先」に、4万人収容の「吹田市立サッカースタジアム」と、国内最大級の複合施設「エキスポシティ」が相次いで誕生！新スタジアムを本拠とするサッカーJ1のガンバ大阪と本学は、フレンドシップ協定を締結。エキスポシティ内の新感覚ミュージアム「ニフレル」とも、総合学術博物館が連携協定を結んでいます。熱い注目を集める新名所に、母校とともに足を延ばしてみませんか。



ロイター 「革新的な大学ランキング」と “Highly Cited Researchers”

ロイター社が15年9月に発表した、「世界で最も革新的(イノベーター)な大学ランキング(100校)」で、大阪大学は世界18位、日本国内では1位にランクされました。同月の「2015年トムソン・ロイター引用栄誉賞」でも、坂口志文・免疫学フロンティア研究センター教授が、世界18名(うち日本人研究者2名)の一人に選ばれました。

16年1月発表のHighly Cited Researchers(高被引用論文著者)では、大阪大学から5分野11名(12件)が選ばれています。



国際シンポジウム 「南部陽一郎の物理学」を開催

15年7月に逝去された南部陽一郎・大阪大学特別栄誉教授(2008年ノーベル物理学賞受賞)の業績をたたえ、本学主催の国際シンポジウムが11月に開催されました。国内外の研究者や学生など約200人が参加し、南部先生の業績を振り返り、物理学の発展へのヒントを見出しました。

大阪大学 ベンチャーキャピタル始動

大阪大学の研究成果の事業化促進に向けた取り組みを進め、研究成果の活用促進を通じた新しい社会的価値を創出する目的で、大学に対する出資事業(官民イノベーションプログラム)で設立された大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社(OUVC)は15年7月、国立大学初となるOUVC1号ファンドを立ち上げ、投資を開始しました。



坂口志文教授が 「ガードナー国際賞」授賞式に出席

免疫学フロンティア研究センターの坂口志文教授(大阪大学特別教授)が10月、カナダ・トロントでの「2015年ガードナー国際賞」の授賞式に出席しました。カナダ版ノーベル賞ともいわれる権威ある賞で、本学からは審良静男教授(免疫学フロンティア研究センター拠点長)に続き、2人目の受賞です。

野中古墳出土品が 重要文化財に指定

大阪大学が所蔵する野中古墳(大阪府藤井寺市)出土品が、15年9月、国の重要文化財に指定されました。本学関係の重文指定は、適塾(旧緒方洪庵住宅、1946年指定)に次ぐ2件目です。

野中古墳は、文学部国史研究室によって1964年に発掘調査が



ています。重文指定を記念して、総合学術博物館でのミニ展示との「世界遺産暫定リスト」に記載された百舌鳥・古市古墳群の市古墳群と古代日韓交流が行われました。

ResOU(リソウ)で 阪大の最新研究成果をチェック

阪大発の研究成果が、日々新聞やテレビで大きく報じられることにお気づきでしょう。最新の研究情報を集めたWEBサイトが「ResOU(リソウ)」。

リリースの概要から研究の経過、意義まで、分かりやすくまとめられています。サイトリニューアルで、ホットピックがひとめでわかるデザインになりました。ときどきチェックして、あなたも研究ツウに。
<http://resou.osaka-u.ac.jp/ja>



大阪大学未来基金、 がんばる阪大生を応援

大阪大学未来基金をもとに、さまざまな学生支援事業が行われています。15年4月



には、「阪大×ケログ」無料朝食キャンペーンを実施(写真上)。新年度の講義開始日から同月末まで、1日200食限定で、栄養バランス満点の朝食を無料で提供し、新入生が朝食習慣を身につけられるようサポートしました。

15年度から、「自主研究奨励事業」も開始。11学部計59件のテーマが採択され、各チームは約半年間の研究活動に従事しました。(写真下は人間科学部のチーム)

KOAN公式アプリを 在学生在が開発

学務情報システム(在学生在が履修登録などをWEB上で行うシステム。愛称「KOAN」)がスマートフォンのブラウザ上では使いにくい、という声に応え、iOS版アプリが阪大公式アプリとして公開されました。開発したのは理学部3年の現役学生。「早くほしいという声もあったので、無事リリースできてよかった」と話しています。



輝く阪大生、 全国で注目集める



●官民挙げて留学を支援する「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」。1期生には、阪大からは女子学生7人が選ばれ、元気な「阪大なでしこ」が文科省のFacebookでも話題になりました。その後の期でも意欲的な学生を送り出し、平成27年度後期(第3期)には、過去最多、9人の阪大生が選ばれました。

●15年12月に行われた日本最大の学生政策提案イベント「ISFJ日本政策学生会議」で、大阪大学法学部国際公共政策学科のチームが「政策提言賞」で初の3連覇を達成しました。

●優秀な大学院博士後期課程の学生を対象に授与される平成27年度の日本学術振興会育志賞に、文学研究科と医学系研究科の学生が選ばれ、両陛下ご臨席の下、16年3月に行われた式で賞を受けました。



●大阪大学男子ラクロス部が15年11月、関西学生ラクロスリーグ1部を初制覇! 同部は全日本大学選手権に進み、決勝で惜敗したものの、全国2位の立派な戦績です。1部昇格1年目の快挙に学内が沸きました。

海外で活躍する方々に 新たな称号を創設

大阪大学では、教育・研究の国際的なネットワークづくりの一環として、本学の卒業生や元教職員で、海外の大学・研究機関等で活躍する方々を対象に、栄誉的な称号として「Osaka University Global Alumni Fellow」を創設しました。これまでに17人に贈呈しています。



授与者の中村祐輔教授と西尾総長(総長室で)

Osaka University Global Alumni Fellow 授与者

No.	氏名	在住国・地域	称号授与時の所属機関・部署名	称号授与時の身分	称号授与年月日	大阪大学在籍当時の所属学部・研究科
1	Itthichai Arungsrisangchai	タイ	Department of Electronics, Faculty of Engineering, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	Associate Professor 大阪大学タイ同窓会会長	2015年 2月7日	工学研究科(博士)
2	Kinya Otsu 大津 欣也	英国	Cardiovascular Division, School of Medicine, King's College London	Professor	4月25日	医学部 医学研究科
3	Ken Suzuki 鈴木 憲	英国	Translational Cardiovascular Therapeutics, William Harvey Research Institute, Barts and The London, Queen Mary's School of Medicine and Dentistry	Professor	4月25日	医学部 医学研究科
4	Masashi Narita 成田 匡志	英国	Cellular Senescence and Tumour Suppressors Laboratory, Cancer Research UK Cambridge Institute, University of Cambridge	Group Leader	4月25日	医学部 医学系研究科
5	Takashi Hayashi 林 貴志	英国	Adam Smith Business School, University of Glasgow	Professor	4月25日	経済学研究科(修士)
6	Kiyoshi Nagai 長井 潔	英国	MRC Laboratory of Molecular Biology	Group Leader	6月23日	基礎工学部 基礎工学研究科(修士、博士)
7	Hideo Konishi 小西 秀男	米国	Department of Economics, Boston College	Chair of the Department Professor	7月25日	経済学研究科(修士)
8	Takashi Yonetani 米谷 隆	米国	Department of Biochemistry and Biophysics, Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania	Professor	7月25日	理学部 理学研究科(博士)
9	Masayori Inouye 井上 正順	米国	Department of Biochemistry and Molecular Biology, Robert Wood Johnson Medical School, Rutgers, The State University of New Jersey	Distinguished Professor	7月25日	理学部 理学研究科(修士、博士)
10	Yoshihiko Yamada 山田 吉彦	米国	Molecular Biology Section, Laboratory of Cell and Developmental Biology, National Institute of Dental and Craniofacial Research, National Institutes of Health	Senior Investigator Chief	7月25日	理学部 理学研究科(修士、博士)
11	Yoshifumi Naka 中 好文	米国	Department of Surgery, College of Physicians & Surgeons, Columbia University	Professor	7月25日	医学部 医学研究科
12	Tomoaki Kato 加藤 友朗	米国	Department of Surgery, College of Physicians & Surgeons, Columbia University	Professor	7月25日	医学部
13	Toru Ouchi 大内 徹	米国	Department of Cancer Genetics, Roswell Park Cancer Institute	Professor	7月25日	医学研究科
14	Takashi Hibiki 日引 俊	米国	School of Nuclear Engineering, Purdue University	Professor and Associate Head	7月25日	基礎工学部 基礎工学研究科(修士、博士)
15	Toshihisa Kawai 河井 敬久	米国	Department of Immunology and Infectious Diseases, The Forsyth Institute (Harvard School of Dental Medicine Affiliate)	Senior Member of the Staff and Chair	7月25日	歯学研究科(博士)
16	Yoke Khin Yap	米国	Department of Physics, College of Sciences and Arts, Michigan Technological University	Professor	7月25日	工学研究科(博士)
17	Yusuke Nakamura 中村 祐輔	米国	Section of Hematology/Oncology, Department of Medicine, The University of Chicago	Professor	10月9日	医学部 医学研究科

海外在住の 卒業生が交流

大阪大学の海外拠点のある北米、欧州、アセアン(タイ)、東アジア(中国)の各エリアで、海外在住の卒業生らが集まる同窓会が開かれました。大学からも総長をはじめとする教職員が参加し、交流を深めました。Osaka University Global Alumni Fellowの授与式も行われ、称号記が贈られました。



大阪大学同窓会連合会 事務局移転のお知らせ

大阪大学同窓会連合会事務局は、2016年4月1日から、下記の通り移転します。電話・FAX番号は新しくなりますが、メールアドレスは変更ありません。HPアドレスも従来のままです。入会受付も年間を通じて行っています。

[現在]
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53
TEL: 06-6444-5186 FAX: 06-6444-2338
E-mail: dousoukai-r@ml.office.osaka-u.ac.jp

[移転後(2016年4月1日から)]
〒565-0871 吹田市山田丘1-1
TEL: 06-6105-5981 FAX: 06-6105-5982
E-mail: dousoukai-r@ml.office.osaka-u.ac.jp
(変更なし)

第10回大阪大学ホームカミングデイ (May 2, 2015)



五月晴れの下、ホームカミングデイが5月2日、豊中キャンパスで開かれ、卒業生、教職員、在学生、保護者ら約490人が参加しました。毎日放送アナウンサー・西靖さん(1994年法学部卒)の記念講演と、司会の関西テレビ放送アナウンサー・関純子さん



(1988年人間科学部卒)を交えた対談では、大学に寄せる思いやテレビ・ラジオ現場の「とっておきの話」が披露され、会場は大いに沸きました。続く懇談会でも場内一杯に歓談の輪が広がり、笑いの絶えない楽しい1日となりました。

本日はホームカミングデイにお招きいただき、ありがとうございます。卒業後、大学にはちょくちょく寄せてもらっていますが、イ号館がこんなにきれいになっているのは初めて知りました。

卒業生は勝手なもので、大学の発展を心から願いながらも、やっぱり変わってほしくないという強い気持ちもあります。さきほど、「明道館」を見に行ったら、きれいに塗り替わっていました。でも、あそこは汚いところでない。応援団が声出しをしたり、その横で美術部が麻雀パイの貸し出しをしたり。そこで行われていたわけのわからないことは、いまでも続いていてほしいと思うのです。

「わけのわからなさ」は、大学に不可欠です。国立大学が置かれた状況も厳しく、短い期間に成果を出すことが求められているでしょうが、勉強なのか何をやっているのかよくわからない人が一定量いなければ、大学の底深さは生まれてこない。これは確信しています。

私は文系学部出身で、成果は数値化されにくい領域です。けれども、そんな中から糸谷さん(文学研究科在籍のプロ棋

卒業生による講演

阪大の日々、 そしてOBとして

毎日放送アナウンサー
西靖さん



士、糸谷哲郎さん)のような個性ある方が生まれているわけです。

私が働く民間放送も、会社ですから儲けなければならないし、番組の視聴率は1分単位で出てくる。それでも、視聴者

やスポンサーに受けるものだけではなく、たとえ数字が取れなくても、放送に載せねばならないネタはあります。わけのわからないことでも、誰かににとっては大切だったり、いつか役に立つことがあるかもしれない。

阪大が大阪外大と一緒にあったのも素敵なことですね。ヨーロッパの少数言語の勉強なんて、自分は高校時代に考えもつかなかった、そんな動機を持つ人と一緒に勉強できるのですから。

今回のホームカミングデイで、10年前の卒業生に呼びかけられたのも素敵なことです。卒業から10年もたつと、母校へのまなざしも遠くなりがちです。

卒業後20年の私はいま、大阪大学と「つながり直し」しているところです。ゼロから人とのつながりをつくるのが難しい世の中、一瞬で戻れるような場を共有できるのは、本当に幸せなことです。

以前、驚田清一元総長が、Follower-shipということばに触れたことがあります。先頭を走るというのは目立つし、わかりやすい。でもわけがわからない世界のなかで「こっこのほうが、感じがいいぞ」と自分の居場所を見つける力も、とても大切です。だから、大学は学びの場として過剰にすっきりしてはいけない。私は、「かき分け」感覚を身につけさせてくれた大学に、とても感謝しています。(抄録)

阪大若手会が関連イベント開催

関連企画として、2014年から活動を始めた大阪大学若手会の企画による交流イベントを開催しました。「おもしろキャリアの先輩・先生に学ぼう!」をテーマに、在学生、卒業生らが語り合いました。

大阪大学の集い(東京) (December 5, 2015)

師走恒例の催しとなった「大阪大学の集い」を12月5日、東京・神田の学生会館で開催しました。これまで最多の約550人が参加して、石黒浩・大阪大学特別教授(基礎工学研究科)の講演に熱心に聴き入りました。続く懇談会では、久しぶりの再会を喜び合う姿が見られ、参加者からは、「また次回も参加したい」との声が相次ぎました。



大阪大学リーダーズフォーラム (February 16, 2016)

大阪大学・大阪外国語大学を卒業・修了の後、ビジネス界などの一線で活躍する方々が一堂に会する「大阪大学リーダーズフォーラム」が2月16日、豊中キャンパスの大阪大学学生会館で開催されました。約120人が参加し、世代や分野を超えた交流が活発に行われました。



卒業生向けセミナーも開催



卒業生のニーズに応えるセミナーも実施しています。15年11月15日には、「第2回 相続セミナー」を開催しました。「相続」にまつわる諸問題への関心の高まりを受けて前年から始めたもので、今回は阪大OBの弁護士、税理士を講師に迎え、ポイントを分かりやすく解説してもらいました。

2016年の、おもな 卒業生向けイベント

今年は「大阪大学の集い」を岡山でも開催。中四国エリアの方も参加しやすくなりました。詳細と申し込み方法は、大阪大学公式HPで随時ご案内します。

大阪	第11回大阪大学ホームカミングデイ
	5月 1日(日) 豊中キャンパス
岡山	大阪大学の集い=初開催
	8月 20日(土) 岡山コンベンションセンター(JR岡山駅直結)
東京	大阪大学の集い
	12月 3日(土) 学生会館(千代田区神田錦町)

皆さまのお越しを
お待ちしております!



卒業生向けメールマガジンOUMail Newsでは、幅広い分野にわたる阪大卒業生のみなさんを、コラム形式で紹介しています。

2015年9月からの掲載記事をまとめて収録しました。阪大OB・OGの多彩な活躍をお読みください。

（肩書は掲載当時）

広報誌「大阪大学News Letter」でも、ロングインタビュー「卒業生登場」を毎月お届けしています。あわせてご覧ください(WEB版を阪大公式HP内「OB・OG譚」に掲載)。

関西からの発信を
続けていきたい



関西テレビ放送アナウンサー
関 純子さん
(1988年人間科学部卒)

マスメディアで働く阪大人は意外に多い。在阪キー各局の顔となるアナウンサーも、阪大卒業生が多数活躍している。その草分け的な存在だ。大阪大学ホームカミングデイの講演や司会など、母校からも頼りにされている。

「でも、(男女雇用機会)均等法から2年目の私の就職時には、阪大からアナウンサーを受ける人なんて、ほとんどいなかったんですよ」。たまたまテレビ局に就職した先輩からの誘いがきっかけで、特に準備もなく入社試験に臨み、1分間の自己アピールでエレベーターガールの真似をして大受けしたのは、すでに「伝説」だ。

昭和最後の入社組(昭和63年入局)。6年目の1993年、朝の新生活情報番組「痛快！エブリデイ」の司会を任される。月曜から金曜まで、連日75分間の生放送を、落語家の桂南光さんとの絶妙な掛け合いで仕切る。人気番組の司会は15年に及ぶライフワークとなり、「関テレに関あり」の声価を不動のものにした。

関西の「ママアナ」の先輩格でもある。「エブリデイ」担当中に、1男1女の産休・育休を取得した。当時、同じ番組への復帰は珍しいことだった。いま思春期の娘さんは、関さんと、同じくテレビマンである夫君との「現場の話あれこれ」に、「そこまでのことは知りたくなかったわ～」と文句を言いつつ、実はディレクターの仕事にあこがれているようだ。

メディアが多様化し、「テレビ離れ」も取りざたされる昨今。それでも放送の役割は変わらないと信じる。「たとえ視聴率に結び付かなくても、取り上げねばならない大事な事柄はある。そんなネタを提示し続けることが、放送メディアで働く者の責務だと思うのです」

「エブリデイ」で寄席特集に携わり、いまでも「上方漫才大賞」の司会を務めるなど、関西の「笑いの文化」も大切にしたいもののひとつだ。「ものが言えない時代になってはいけないと思います。一般の人からでも、おもしろいインタビューが取れるのが関西。お笑いや上方芸能などの伝統を守って、関西からの発信を続けていきたいですね」

クレジットカードは
人のつながりを生み出す



三井住友カード株式会社
大阪個人営業部
今井あかねさん
(2009年大阪外国語大学比較文化専攻卒)

2015年3月に発行を開始した、阪大ファミリーのためのクレジットカード「大阪大学カード」。大阪大学とカードを共同発行する三井住友カード株式会社で、企画から立ち上げまで担当した。

外語大ではフランス語を専攻。また箕面キャンパスの「夏まつり」実行委員会でも活動。愛知万博開催の年には、目玉展示物にちなみ、マンモスをかたどった大ゲートを制作して盛り上げた。

「自分の好きなものを世の中に広めて、人を笑顔にする仕事をしたい」と考えて就職活動を行い、国際ブランドのカードを発行する同社に出会った。自身は海外留学以来、日常的にクレジットカードを利用していたが、まだカードを持っていない学生も周囲には多い。利便性をもっと知ってもらいたいと思い、選考に進んだ。

09年4月の入社後は、おもに企業向けのコーポレートカードに携わり、10年12月から、大学や専門学校を基盤としたカードの営業企画に従事してきた。母校の名を冠したカードに、思い入れは強い。2年にわたって大学側と折衝し、校章やモノグラムを意匠化したカードが出来上がった。「性別・世代を問わずに愛される、とても格好いいデザインで、私も気に入っています」。大学祭やホームカミングデイなどの機会にはブースを仕立て、入会案内に声をからした。

「クレジットカードは決済のツールだけれど、人と人とのつながりも生み出す」が持論。「大阪大学カードは、持つことでいつまでも『阪大生』でいられるような、そんなカードにしたいですね」カード利用手数料の一部は、阪大の教育や研究に還元される。「使えば使うほど、母校への貢献になります。日常の買い物をしながら、後輩を応援していきましょう！」

15年6月から産休・育休を取得中で、16年4月に復帰の予定だ。職場には女性も多く、働きやすい環境が整っているので安心だという。復帰したとき、大阪大学カードの会員がどのくらい増えているか、楽しみだ。

週末は短距離ランナー
練習は正直です



たる出版株式会社代表取締役社長
米國公認会計士
山口 一さん
(1990年経済学部卒)

日本で唯一の“酒”の情報誌として知られる月刊誌「たる」。1980年の創刊時から、そうそうたる執筆者に酒への愛や思い出を寄せてもらっている。7人の社員を率いる社長として、同誌の営業から取材まで奔走する山口さんは、1年前までは独立系の経営コンサルタント、その前は地方銀行や外資系投資信託会社に身を置く、バリバリの金融マンだった。

同誌の代表から経営面の相談を受けたのがきっかけで、後継者含みで自らかかわることに。もともと酒も酒文化も、文章を書くのも好き。大きな転身にも戸惑いはなかった。お酒の新しい楽しみ方を提案する、攻めの誌面づくりが身上だ。

公認会計士としての仕事も継続する「一足半のわらじ」の生活はきわめて多忙だが、スポーツは欠かせない。「真っ黒に焼けているので、ゴルフか、ハワイ帰るか、とよく言われる」そうだが、じつは、中学時代から続けてきた陸上競技の短距離がメインだ。

「人があまりやらない短距離の方が、希少価値があるでしょう？」陸上は、道具を使わず自分の身体だけで勝負するところが、最大の魅力。平日は仕事と割り切り、土日にがんばる。自分のペースで練習でき、いい気分転換になります。ただ、少しでもサボると成績に直結するので大変です。シーズン中は、マスターズ陸上の各府県の大会を月1回ぐらいのペースで転戦し＝写真＝、100メートル12秒台を記録しているようだ。

大学時代は、スキューバダイビングにも熱中。ダイビングショップを通じて知り合いが増え、「20歳そこそこの若造が40代の人たちとも親しく付き合えて、すごく刺激的でした」。自ら事業を行うようになると、タテ・ヨコの人のつながりこそが財産だとの感が深まった。

阪大は、そんな人間関係が希薄な印象があったが、5年前に経済学部同窓会総会に初めて参加し、「この世代間のつながりを生かさなければ、もったいない」と痛感した。以来、同窓会の役員も積極的に引き受け、60代の人たちと飲みに行くことも増えている。後輩たちにも、ぜひこの人の輪に加わってほしいと願っている。

山口さんへのロングインタビューは、こちらから
URL http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/snapshots/ou_ogob/201509_yamaguchi

人と人とを結んで、
大阪を元気に



大阪商工会議所経済産業部
ライフサイエンス振興担当課長
井上 毅さん
(1992年経済学部卒)

「大阪の経済を『緑の下の方持ち』として支えたい」

そう考えて1992年に大阪商工会議所に入った井上さんは、阪大のモットー、「地域に生き世界に伸びる」を地で行く経験を重ねてきた。

入所10年目までの一番の大仕事は、同所開設120周年を記念する「大阪企業家ミュージアム」の立ち上げ。大阪ほどの大都市のくくりで、企業家らの理念や業績を展覧する前例はない。大学のゼミの恩師で、企業史が専門の宮本又郎先生の全面的な監修を仰ぎ、「チャレンジとイノベーション」に焦点を当てて展示を構成した。開館から15年、就活生の隠れた人気スポットとして定着している。

2007年からの4年間は、タイの首都バンコクで、在タイ日系企業約1500社が加盟する「バンコク日本人商工会議所」の事務局長を務めた。進出企業の「よろず相談所」であり、代表して同国政府へのアプローチを行う立場でもある。「日系企業はタイ社会のよき構成員でもあります。そのことを忘れず、相手のメンツも考えて話すことが大切です」

じつは出向の内示を受けた直後から、バンコクでは反政府デモが断続的に発生していた。「進出企業から、退去すべきかどうかの基準がほしいという要望が相次ぎました。当地のデモはシナリオがなく、進展が読みにくい。地元の人の目線で情報を集め、冷静に評価する必要があります」

10年には、オフィスの目の前の公園が封鎖されるまでに。従来通りの業務をなるべく継続する一方で、一時退避場所も早くから確保しておいた。バリケード排除の最終局面が近くなったのを察知して、すみやかに仮オフィスに移転。政府から退避要請が出る2日前だった。

帰国後は、ベンチャー支援や、ライフサイエンス産業など成長分野を開く事業に携わっている。医療機器開発や創業などの分野で、地元の企業とアカデミアをどう結び付けるか。「阪大は早くから産学連携を進めているので、頼りになります」。中小企業から「大商に頼んでよかった」と言われるのが、何よりうれしい。

「アジア鉄道ライター」の顔も持つ。「生まれつき」の鉄道好き。阪大を選んだのも、鉄道研究会が有名だから。40カ国以上の鉄道に乗車し、とくにアジアの事情に詳しい。文化センターで講演したり、アセアン旅行情報サイトの鉄道記事を執筆したり。「仕事は第三者が評価するもの、趣味は自分が評価するもの。仕事の成果だけを人生の真ん中に置くのは、しんどいでしょう？」

弁護士はよき
コミュニケーターであれ



さくら法律事務所 代表弁護士
上田 憲さん
(1990年法学部卒)

身近な法律問題を、専門家に相談したいと思ったことは誰しもあるだろう。聞いてみたいテーマの筆頭は、いまや「相続」ではないか。

ニーズを汲んで大阪大学が主催した「相続セミナー」で、2年連続して講師を務めた。温かい声、穏やかな口調で、「相続争いは、親子間、子同士のコミュニケーションがよければ回避できるのですよ」と説く。

「弁護士事務所って、敷居が高い感じですよ。初めての相談者は、怒られないかとさえ思っている。話しやすい雰囲気は心がけています。困っている理由をしっかりと聞き取り、安心して帰ってもらいたいのです」。自身も含め、弁護士には(関西弁でいう)「いらち」が多いらしく、それをカバーしようとしているうちに自然に出来上がったスタイルだという。

もともと法曹志望ではなかった。大学時代は合気道部に所属し、「家と畳の上との往復」で過ごす。企業への就職もすぐに内定した。なのに、突然「バブルに浮かれてこれでいいのか、やっぱり勉強せねば」という気持ちになり、司法試験受験を決意した。

とはいえ、在学中ほとんど教科書を開いたこともない、ゼロからのスタート。最初は予備校にも通わず、ひたすら法律や文献に向き合う。浪人2年目は寝ている時間以外は勉強して、1992年にみごと合格を果たした。「受験勉強はもういらん。受かってホンマよかった」

徳島での司法修習を終え、95年にさくら法律事務所に入所。創業者2人の事務所が合併したファームで、地名や人名と無縁の法律事務所名は全国でも初だったそう。型破りなボスたちで、この名前を選んだのは、「日本の花といえば桜。なにより桜は虫がつくのがいい」。仕事だけでなく、勉強会も委員会や弁護士活動も、何でも自由にやってくれ、という方針。5年も勤めたら独立しようと思っていたはずが、伸び伸びやらせてもらって、いつのまにかパートナー弁護士に。

「おかげでバランス感覚が養えました。企業法務を数十社担当していますが、日弁連の消費者問題対策委員会も20年やっている。家に帰れば、誰でも消費者。その視点を忘れては、本当の企業法務はできません」

弁護士は、さまざまなプレッシャーや誘惑に「むき身」で向き合っているという。お金をもらいながら、説教もし、嫌なことも言わねばならない。ストレスの多い仕事だが、たまに下手なゴルフをするぐらいで、とくに発散しているわけではない。あんなに励んだ合気道も、疎遠さみ。「もっとOB会に顔を出して、後輩からパワーをもらわねばなりませんね」

阪大でのつながりを、
ずっと大切に



ソニー株式会社
プロフェッショナル・ソリューション事業本部
研究開発エンジニア
ヴァイジタ・ラナトウングさん
(2005年工学部卒、2007年情報科学研究科修了)

大阪大学で学ぶ海外からの留学生は、現在約2000人。うち、毎年150人ほどが国内で就職する。日本でのさらなる飛躍を目指す元留学生のための同窓会が「大阪大学国際同窓会」だ。2010年の創立時から、会長を務める。

大阪大学で3カ月以上学んだ留学生であれば、誰でも会員になれる。毎年、新規卒業生のウェルカムパーティーを行うほか、現役留学生向けの就職対策講座に同窓会メンバーが協力するなど、大学との接点ともなっている。SNSのグループにはすでに600人以上が登録し、情報交換や交流を進めている。

阪大在学中から、留学生間、また一般学生とのネットワークキングに携わってきた。「大阪大学留学生会」の立ち上げに加わり、1年間会長を務めた。国際交流サークルBSP(Brothers and Sisters Program)のメンバーとして、留学生が日本の生活に溶け込めるよう、さまざまな手助けも。

「阪大は留学生が多く、先生やスタッフからの支援も力強かった。外国にいる不自由をほとんど感じませんでした。その分、私もみなさんの助けになりたかったのです」

スリランカ出身。高校卒業後、文部科学省の奨学金を得て、旧大阪外国語大学で1年間、日本語を学んだ。すっかり関西、大阪が好きになり、迷わず阪大への進学を決めた。

専門の情報科学では、最先端の研究をする教授陣に学ぶことができる理想的な環境でもあった。大学院修了後も日本以外での就職は考えず、外資系企業やグローバル事業を展開する日本企業で仕事につきたいと希望した。

現在の会社では、テレビ会議や放送機器など向けに、ビデオやオーディオの伝送品質を向上させる技術の研究開発に携わっている。「もちろん、阪大で先生方に学んだことが、今の仕事につながっています。自分が開発した新しい技術が製品に組み込まれ、世界の人々の役に立っている。大きな喜びであり、やりがいを感じます」

広い視野を持って、社会人として成功していくためには、さまざまな文化的背景を持つ人と交流し続けることが重要だと考えている。これからも、その場を提供していきたい。「ぜひ、われわれのイベントに参加して、大学で作ったつながりを大切にしていきたい！」

大阪大学国際同窓会のホームページはこちら
<http://intl-alumni-osaka-u.jp/index.html>

日の当たらない場所に
光当てたい



毎日新聞東京本社
生活報道部 記者
野村房代さん
(2002年人間科学部卒)

東日本大震災から間もなく5年。東京も大きな揺れにみまわれ、各新聞社が総力を挙げて地震や津波による被害を報じた。当時、紙面を制作する編集制作センターに所属していた野村さんも、現地から刻々送られてくる記事と格闘し、ニュース面や特集ページを連日レイアウトした。

発生8日後の朝刊1面記事に「被害戦後最悪 —『阪神』超える」という見出しをつけた。こんなことが起こるとは——。阪神大震災が発生した1995年、神戸市内の中学校に通っていた。自宅は大阪府内だったため、自分や家族に大きな被害はなかったが、通学途中で目にする崩れ落ちた町、家族を亡くした友人の姿に言葉を失った。

新聞記者となって3年目、勤務地の岡山から神戸に長期出張し、阪神大震災後9年の取材班に加わった。被災した人、大切なものを失った人の声を受け止める取材だった。「日が当たらないこと、あまり知られていないことを伝えたいという思いがありました」。東日本大震災から1年後には、静かに前を見すえる被災地の人々の表情を伝える写真特集を制作し、読者の反響を呼んだ。

2014年から、生活報道部で主にファッション関連のニュースを担当している。昨年はパリコレクションの取材にも出かけた。華やかなファッションの世界は、ともしれば軽佻浮薄な印象を持たれがちだが、舞台裏を支える人たちの地道な活動を取り上げ、日の当たらない場所にも光を当てていきたいと思う。

在学中、報道サークル「大阪大学POST」に参加。関西9大学が加盟する関西学生報道連盟(UNN)による大学新聞で、他大学のメンバーとも協力して月1回発行した。ジャンルを問わず、阪大に関することなら何でもありの取材。さまざまな人に会って話を聞く面白さを知った。

自然に報道メディアへの関心が高まり、新聞記者に。「報道サークルでの経験は、就職後ある程度役に立ちましたが、もっと授業に出てしっかり勉強しておけばよかったという後悔があります。その時には無駄に感じて、後で必ず生きる。在学生のみなさんには、心からやりたいと思えることを極めてもらいたいですね」